

長崎の林業

小曾根星堂書



雲仙・普賢岳水無川流域（島原市南上木場町・南島原市深江町）

4

目次

● 林政だより	令和4年度林政課・森林整備室の予算概要……………	2～3
● 特集記事	放置竹林の整備を通し持続可能な山の資源活用を目指す 長崎市森林ボランティア団体 TAKE NO EN 代表 内藤 恵梨さん ……	4～5
● 地方だより・五島	土木の日イベントで森林・林業をPRしました ……	6
● 地方だより・島原	雲仙地区地域防災対策総合治山～緑よ甦れ～ ……	7
● 地方だより・県北	ながさ木 iroiro展 in ムービングハウスの開催 ……	8
● 林業団体情報	長崎県緑化推進協会 「緑の募金」 の取組状況 緑の募金で緑豊かな郷土づくり ……	9
● センターだより	シマハランを種から育てる ……	10
● 紹介コーナー	飯盛神社「白なまずみくじ」 ……	11
● 長崎の山と森	長崎市民の森（長崎市） ……	12

「長崎の林業」は、ながさき森林環境税により発行しています。

ながさき森林環境税



2022
No.799

木づかい推進で地球温暖化を防止しよう！

ながさき森林環境税の取組についてはこちら→



森林ボランティアに興味のある方はこちら→



FREE

ご自由にお持ち下さい。

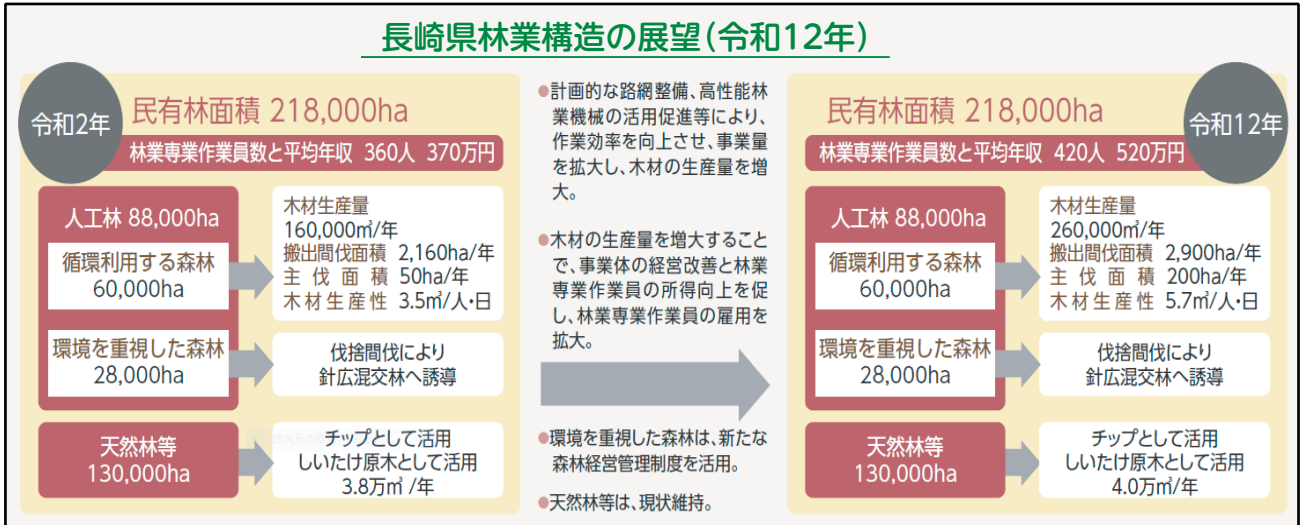
「長崎の林業」はこちらからもご覧いただけます→



林政普及だより

令和4年度林政課・森林整備室の予算概要

長崎県林業構造の展望(令和12年)



ながさき農林業・農山村活性化計画

令和4年度は、若者から「選ばれる」、魅力ある農林業・暮らしやすい農山村の実現を目指すために策定された「第3期ながさき農林業・農山村活性化計画」実行の2年目です。

この活性化計画では、令和12年の本県の林業の姿として、循環利用する森林を60,000ha確保し、計画的な路網整備、高性能林業機械の活用促進等により木材生産量の増大を図り、林業事業体の経営改善を進めることで、林業専業作業員数を420人とし、平均年収520万円の確保を目指します。

また、近年多発する自然災害に対して、県民の安全・安心で快適な地域づくりを推進するため、治山事業を実施します。

◎林務関係当初予算の概要

令和4年度の当初予算は骨格予算となっており、林務関係の一般会計当初予算額は61億56百万円です。

主な事業

1. ながさき森林環境保全事業

(予算額：242,516千円)

令和4年度から、第4期ながさき森林環境税事業が始まります。SDGsやカーボンニュートラルなどの社会的要請に応えるとともに、

森林の整備や木育の促進、県産材の利用拡大など、森林の持つ公益的機能の維持発揮のため、「環境重視」と「県民参加」の視点に立った活動を支援します。



保育施設での県産木製品の導入

2. 森林環境譲与税事業

(予算額：85,500千円)

森林経営管理制度を推進するために、市町業務に関する助言・支援等を行うための森林経営管理制度サポートセンター（仮称）の設置準備を行います。

また、林業事業体の人材育成プログラムの作成と体系的な研修カリキュラムの作成実施、産地計画の中間分析を行い、更なるステップアップを目指した将来像策定に向けた実行支援を行います。



林業経営体役員研修会

3. 森林環境保全整備事業（造林公共）

（予算額：289,454千円）

森林の有する公益的機能の維持増進を図るためには、健全な森林を育てる必要があります。そのための造林や間伐等の森林整備を支援します。



伐採及び伐採後の再造林

4. 森林環境保全整備事業（林道公共）

（予算額：93,690千円）

森林資源の一体的・効率的な整備を促進するために必要な林業専用道の整備を行います。



林業専用道の整備

5. 治山事業

（予算額：1,523,559千円）

梅雨前線や台風による集中豪雨等を起因とした山地災害から県民の生活を守るため、施設整備及び森林整備を実施します。



新上五島町築地地区予防治山事業

◎林務関係補正予算の概要

林務関係の1月補正（経済対策）予算は、15億39百万円となります。

主な事業

1. スマート林業導入支援事業

（予算額：27,756千円）

I C Tを活用したスマート林業技術等の導入やオペレーターの育成等を実施します。



2. 森林環境保全整備事業（造林公共）

（予算額：641,249千円）

森林の有する公益的機能が十分発揮されるよう、搬出間伐などの森林整備を実施します。

3. 治山事業

（予算額：735,000千円）

災害を未然に防止し、安心して生活ができるよう、谷止工などの治山事業を実施します。

（林政課計画調整班）

【特集記事】

放置竹林の整備を通し 持続可能な山の資源活用を目指す

長崎市 森林ボランティア団体
TAKE NO EN 代表 内藤 恵梨さん

株式会社 EN 代表取締役社長、森林ボランティア団体 TAKE NO EN 代表 内藤 恵梨さん

長崎市東部の日見地区。長崎自動車道の芒塚インターから車で1～2分程の緑に囲まれた小高い丘の上に建つトレーニングジム「EN - Nex（エンネックス）」。

こちらに併設する「太陽と月の酵素カフェ」には、150種類以上にも及ぶオーナー特製の酵素や、無農薬で体に優しい食材などが並び、美容と健康の両面から体を整えてくれる人気の場所となっています。

今回はこちらのオーナーであり、ボランティア支援も行う「株式会社 EN」の代表取締役社長 内藤恵梨さんの取組をご紹介します。

会社設立までの道のり

元海上自衛官という経歴を持つ内藤さん。艦艇勤務時代の所属先は、水雷科という潜水艦の探索解析を行い魚雷を撃つ部署でした。誰かのために働きたいという決意のもと任務を遂行していたある日、突然の病が襲いました。当時 20 代、これからという時に初めて命の危機を間近に感じたそうです。一命は取り留めたものの人生の岐路に立ち、

将来を模索していた頃、出会ったのがタイ国境近くのミャンマー難民の子どもたち。電気もない不自由な生活下、本を読むための光を届けるボランティアとして、廃棄キャンドルのリサイクル事業を起ち上げ、現在は販売で得た収益で、現地に図書館を建てるという目標に向かって事業を進めています。

森林ボランティアとしての活動

持ち主の高齢化に伴い管理が行き届かない竹林が近くにあると耳にした内藤さん。仲間と共に訪れた先で、放置され荒れ果てた山の姿を目の当たりにしました。整備を引き受け、見様見真似で手入れをする中、「この山を再生し、タケノコも採れる美しい竹林にして後世へ繋げる方法を見つけたい。」という想いが芽生えたそう。当初は全くの素人でしたが、自ら代表となり森林ボランティア団体を起ち上げ、想いを共有しあえる仲間と本格的に整備を始められたそうです。

活動を通し拡がるコミュニティ

新設された団体はその名も「TAKE NO EN」。現在 3 歳から 83 歳まで約 60 名が「自分の出来る事を」をモットーに得意分野の様々な知恵を持ち寄り、各々動ける時に活動しています。山では小学生も一人前。大人が楽しそうに汗を流し作業する姿を見た子ども達は、自然と自分が出来る事を見つけ出し、率先して作業に挑戦しているそう。自身を「村長」に例える内藤さんが中心となり TAKE NO EN が小さな「村」となって次世代に伝えるコミュニティが完成しています。



タケノコ掘りと作業後のタケノコ料理昼食会



フォレストマスターによる安全講習会



ハロウィン竹ランタン作りと竹プランター（右）



竹細工（竹籠）講習会（左）と門松作り

今後の展開と目標

TAKE NO EN では、竹林整備を通して得た資源の持続可能な還元を目指している他、地域の防災にも力を入れています。1982 年の長崎大水害は同地区でも竹山の崩落や土砂崩れ等、大きな被害が出ました。昨年は自作の防災リーフレットを地域に配布して周知を促すと同時に、手作りの竹灯籠に鎮魂の火を灯しました。今年度も 3 月と 7 月に消防士、看護師、防災士など各分野のエキスパートの目線から防災を考えるイベントを予定しているそうです。（3 月は開催済み）



3. 11 慰霊の竹灯籠

防災を学ぶ竹飯盒炊飯

昔から伝わる資源活用のひとつ竹細工。TAKE NO EN で竹細工の講師を務める北村幸一郎きたむらこういちろうさんの作品をアレンジしたアクセサリも現在制作中で、昔ながらの手仕事に若い感性を盛り込んだ作品は大変魅力的です。

また、タケノコを使ったメンマ作りにも挑戦されています。昨年は福岡県糸島にある工場を訪れ、技術を学ばれたそうです。将来的には自社製作を目指しており、地元のを地元で消費する取組を始めています。

楽しいイベント、異なる世代や異文化との交流、そして汗を流した後には皆で囲む温かい食事。そこに人が集まり、その輪は少しずつそして確実に広がりを見せています。持続可能な山の資源活用の販路を見出す活動の他、居場所作りや地域への貢献、防災意識の向上をも目指す TAKE NO EN の取組。これからの時代に合った新しい挑戦が続いています。

(NPO 法人地域循環研究所)

地方だより

土木の日イベントで森林・林業をPRしました

昨年11月28日、新上五島町青方港で開催された、土木の日イベントにおいて森林・林業のPRを行いました。

第30回を迎えた本イベントは、建設業協会五島支部上五島青年部が主催し、建設業や公共事業への理解を深めること等を目的として毎年開催されています。



林業パネル展示

五島振興局林務課新上五島町駐在では、森林・林業に興味・関心を持ってもらうため、森林・林業のパネル展示、木の葉や松ぼっくりを活用したしおり作り体験やツリー木工体験コーナー等の森林・林業ブースを設置しました。

イベント当日は天気恵まれ、沢山の方に来場いただき、各ブースは大盛況となりました。林業で使われる機械をまとめたパネルを熱心に見たり、体験コーナーで職員による製作指導のもと、木の葉のしおり作りや松ぼっ



竹ぼっくり作り体験

くりを使ったツリーのデコレーションに熱心に取り組んだり、親子で思い思いに楽しんでいました。また、地元の樅苗木生産グループ、樅木工技術振興会や新上五島町地域おこし協力隊の方々にも出店いただき、樅苗木や木工品の販売、竹ぼっくり作り体験を行っていただきました。

普段あまり触れる機会のない木の葉、木の実や木の板等の材料にも興味を持って子供が大人に質問をする姿や、それぞれの力作が完成した時の子供たちの笑顔がとても印象的でした。

身近にある森林・林業に少しでも興味・関心を持つきっかけづくりができるよう、今後も積極的に活動を行っていきます。

(五島振興局林務課)



松ぼっくりツリー木工体験



木の葉のしおり作り体験

地方だより

雲仙地区地域防災対策総合治山 よみがえ
～緑よ甦れ～



水無川流域の治山対策前の写真（左）と治山対策後（令和3年）の写真（右）

はじめに

雲仙・普賢岳噴火による治山対策については、平成3年3月に「雲仙岳・眉山地域治山対策検討委員会（現：雲仙地区治山対策検討委員会）」（以下、委員会という。）を設置し、委員会の提言を受けて、水無川、中尾川、湯江川の三流域について、国有林・民有林が一体となり、治山計画基本構想を作成し、ヘリコプターによる緑化工等の山腹荒廃対策や、火山噴出物によって堆積した土砂の侵食流出を抑制するための治山ダム工等による溪流荒廃対策を実施してきました。

水無川流域の治山対策

水無川流域では、平成6年度から令和2年度までに以下の治山対策を実施しました。

工種	数量
航空緑化工	56 ha
航空実播工	17 ha
〃 追肥・追播	38 ha
導流堤	1 基
流路工	165 m
治山ダム工 有人施工	2 基
〃 無人施工	17 基

これまでの対策工により委員会からは、谷の侵食抑制、土砂や水の流れを整える機能は向上したと評価を得ており、今後は、地形の変化等を把握する定期観測を継続しつつ、必要に応じて追加対策を講じるよう提言されています。

直近の治山対策（航空実播工）

同委員会の提言を受けて、令和3年2月に溶岩ドーム頂上部から約2km下流の南東斜面の治山ダム周辺部3.9haにおいて、ヨモギやイタドリといった4種類の草本種子をヘリコプターにより散布を行いました。

また、散布した草本類の成長を促進するため、令和4年2月に空中から肥料の散布を行いました。



ヘリコプターによる種子散布の様子

最後に

引き続き長崎県農林技術開発センターと連携し、観測・調査を定期的実施するとともに、これからの観測・調査結果や治山対策について情報発信を行うなど、地域の皆様の安心・安全に寄与してまいります。

（島原振興局林務課）

地方だより

ながさ木 iroiro展 in ムービングハウスの開催



ながさ木 iroiro 展 in ムービングハウス

はじめに

県北地域を拠点に長崎県産木材の利用拡大に向けた製品開発やPR活動を行っている、県産地域未利用材利活用促進研究会(会長:(株)坂元木工工芸 坂元 崇)が、1月17日~23日にかけて佐世保市島瀬公園において、ながさ木 iroiro 展 in ムービングハウスを開催しました。

ながさ木 iroiro 展 in ムービングハウス

同研究会では、県産木材の新たな需要創出・PRを目的として「ながさき森林環境税」を活用し木製品の開発・制作を行っています。

今回の展示会では、ウィズコロナ時代のライフ・ビジネススタイルの変化に対応することをコンセプトに、昨年からの製作に取り組んでいるムービングハウス「スマートモデュロ」(縦2.2m×横12.0m)を会場に持ち込み、ムービングハウスの中で長崎県産木材を活用した内装や家具・木製品を展示しました。



ムービングハウス内の展示状況

外見は武骨なコンテナハウスですが、一步ハウスに踏み入ると、想像以上の居住空間と内装の木材の香りとぬくもりに来場者は驚きを隠せませんでした。

展示期間中に400名ほどの見学者が来場され、土日に合わせて開催した木工体験ワークショップも大好評で、佐世保市民に対してのPR活動は大成功となりました。



研究会員製作の木製品



木工体験ワークショップ

当研究会では会員である「(株)坂元木工工芸」、「(株)富建」、「佐世保独楽本舗」、「佐世保林業研究会」の4者が連携し、それぞれの得意技術やアイデアを融合させ、県産木材を利用した木製品の開発を引き続き行われるそうです。

(県北振興局 林業課)

林業団体情報

長崎県緑化推進協会「緑の募金」の取組状況



令和3年「緑の募金」実績

令和3年（R3.1.1～12.31）の「緑の募金」実績は29,454,264円となりました。

ご協力ありがとうございました。

本年もご協力のほどお願いいたします。

令和4年の「緑の募金」活動

令和4年の募金活動では「緑の募金で進めようSDGs」をスローガンに活動に取り組んでいます。募金活動期間は、春は3月1日～5月31日、秋は9月1日～10月31日とし、広報啓発活動では各市町や関係団体への募金チラシの配布、テレビCMの放送、また、募金活動では市町と連携しながら家庭募金、職場募金、街頭募金等で募金に協力をお願いしています。

なお、昨年から飲料会社の協力により、自動販売機の売り上げから「緑の募金」へ協力していただく取組を始めました。この取組に関心のある方は当協会へ連絡願います。

また、「緑の募金」に関する情報をHP等により県民の皆様へ広く周知し、緑豊かな郷土づくりを推進していますので、興味のある方は当協会HPをご覧ください。

こちらから→



「緑の募金」による主な活動状況

○県民参加の森林づくり事業

（記念植樹等に苗木の助成）



○幼稚園等環境緑化整備事業

（幼稚園等の環境緑化に花苗等の提供）



○緑と水の森林ファンド事業

（森林のつどいの開催）



○緑の少年団活動活性化対策事業

（少年団による緑化活動へ花苗の助成）



（（公社）長崎県緑化推進協会）

センターだより

シマハランを種から育てる

はじめに

長崎県で栽培されているハランは、葉全体が緑色をしたアオハラン、白い縦縞の斑がはいるシマハラン、葉先が白くなるアサヒハランの3種類で、シマハランが最も高い価格で取引されています。ハランは、スギ・ヒノキ林の林間で栽培され、林業における重要な短期収入源となっています。

そこで、シマハランの生産量を増やすため、種子から実生苗を育てる方法について調査を行ったのでお知らせします。



写真1 ハランの花



写真2 ハランの実と種子

実生苗を育てる

ハランは地中に埋まるように花を咲かせ、実には十数個の種子が入っています。その種子が発芽した実生苗は、集団で発生しており、1つの実から発芽したものと考えら

れます。このような実生苗のうち、明瞭な斑となる葉の苗の割合は、およそ4%でした。シマハランの実生苗であっても、形質が引き継がれる可能性は、非常に低いことが分かりました。



写真3 種子からの発芽

この明瞭な斑となる貴重な苗を大切に育てることで、形質の良いシマハランを増やしていくことが可能になります。

この苗をプランターで育てた結果、1枚目の葉の形質が2枚目以降にも高い確率で引き継がれることが分かりました。また、2枚目3枚目と新しく葉を出すたびに葉長が6cm程度ずつ大きくなりました。7~8葉目には出荷可能なサイズになると思われます。

シマハランを増やす方法として、圃場^{ほしやう}に自生する優良苗を育ててみてください。



写真4 新芽の成長

(長崎県農林技術開発センター)

紹介コーナー

飯盛神社「白なまずみくじ」



長崎県産ヒノキで作られた「白なまずみくじ」

相浦川側の参道を上るとそこは清らかな空気が流れる神社の境内。その一角になんとも愛嬌のあるおみくじが並んでいます。

佐世保市相浦町にある飯盛神社で最近「SNS で見た」と訪れる参拝者が増え、密かなブームとなっているのがこの「白なまずみくじ」。長崎県産のヒノキで一つ一つ丁寧に作られているこのおみくじは、地元で昔から伝わる伝説に基づいて 2 年程前にお目見えしました。その昔、飯盛神社の神様が川でなまずを助けたところ、そのお礼にと後世ご利益をもたらす存在となり、神社を

訪れた参拝者の病を治したと伝わっています。

この可愛らしいおみくじを作っているのは勇桂司さん、神社近くの道場で子ども達に剣道を教える師範です。元々趣味の木工を嗜んでいた勇さんに、コロナ禍で人との接触を避ける日々が続く中、安心して思い思いにおみくじを楽しんで欲しいと、禰宜を務める松瀬弘喜さんが相談したのがきっかけでした。松瀬さんがアイデアを出し、試行錯誤を重ね、口に咥え授与する形が出来たそう。希望があればお守りとして持ち歩けるようストラップを付けて下さいます。

長崎県産ヒノキで出来た愛らしい白なまずみくじで運勢を占ってみませんか。



勇さんの木工品が並ぶ神札授与所とみくじストラップ

飯盛神社

住所：長崎県佐世保市相浦町 2343

電話：0956-47-2515/090-7028-2795

伊万里木材市況

【ヒノキ】

令和4年3月現在

長さ	径級 cm	等級	高値 (円/㎡)	現在出荷量	現在引合	需要見通
4m	16～18	直	22,500	普通	普通	多い
	16～18	小曲り	20,500	普通	普通	多い
	20～22	直	22,500	普通	普通	多い
	20～22	小曲り	20,500	普通	普通	多い
	24～28	直・小曲り	21,000	少ない	普通	多い

【スギ】

令和4年3月現在

長さ	径級 cm	等級	高値 (円/㎡)	現在出荷量	現在引合	需要見通
4m	18～22	直	16,300	普通	多い	多い
	16～22	小曲り	14,500	普通	多い	多い
	24～28	直	16,300	普通	多い	多い
	24～28	小曲り	14,500	普通	多い	多い

※情報・お問い合わせは、伊万里木材市場 電話 0955-20-2183 まで

長崎市民の森



橘翔(きっしょう)大展望からの風景

長崎市民の森は、長崎市街地より車で15分ほどの場所で、長崎市民に多く利用される親しみのある森です。「昆虫の森」や「野鳥の森」等のエリアがあり、子ども達の野外学習の場にもなっています。周辺には八郎岳や唐八景などがあることから、登山者は、稜線沿いに縦走するなど、様々な森の楽しみ方ができます。また、森林体験館が設置されており、門松づくりや木工体験、野外炊飯等のイベントも随時開催されています。

ボランティア団体による森林整備

広大な森林の一部は、森林ボランティア団体が整備を行っています。「ながさき楽しみの森づくり会」はこれまで、森林・山村多面的機能発揮対策交付金事業を利用し、橘翔大展望や烏帽子岩樹園“さえずりの小径”などを設置しました。特に、橘翔大展望からは、橘湾を眼下に雲仙・天草までも眺望することができる人気のスポットです。展望所の上空付近は、越冬する渡り鳥の通過点でもあり、早春には九州の南の方で越冬していたマナヅルやナベヅルが北へ帰る様子を観察することができます。また、「長崎もり活研究会」では、小ヶ倉ダムから市民の森へと続くルートのスギ林の間伐や、竹林の整備も行っています。整備をしていると、散策を楽しんでいる方々から励ましの声をいただく事もあるそうです。

企業による森林づくり

長崎市民の森では、今年度から企業による森林づくりもスタートしました。地元企業の株式会社ホルスさんが、地域貢献の一環として市民の森内にあるヒメシャラの森周辺の整備を行っています。この森の周辺は小ヶ倉ダムに流れる支流があり、近年は風倒木や洪水、鳥獣害により森林は荒れた状態となっていました。多くの方が市民の森を安全に散策できるよう、一部は森林組合に委託しながら、社員の皆さんが力を合わせて取り組んでおられます。また、地域の子供達に向け、森林環境教育の為の森林体験活動も行っていくそうです。

最後に

これまでの森林は、山村地域の方々が守り継いでこられました。長崎市民の森のように森林ボランティアや企業など、皆が協力しながら守る次世代型の森林づくりが始まっています。

(NPO法人地域循環研究所)

長崎の林業 4月号 第799号
編集・発行 長崎県林政課
住所：長崎県長崎市尾上町3番1号
電話：095-895-2988
ファクシミリ：095-895-2596
メールアドレス：
s07090@pref.nagasaki.lg.jp